

作物名：大豆
 病害虫名：ウコンノメイガ（学名：*Pleuroptya ruralis*）



写真1 ロール巻の食害痕



写真2 食害痕



写真3 葉裏の蛹と糞



写真4 蛹



写真5 成虫



写真6 幼虫

1 被害状況

(1) 被害の特徴

- 幼虫は葉をロール状にゆるく巻き、その中で葉を食害する。
- 1匹の幼虫が数枚の葉を食害し、近くの葉を綴ることがある。
- 発生が多いと全葉が被害を受け、食害部は褐変して枯死する。

(2) 虫の特徴

- 幼虫は、頭部・胸部とも淡緑色。
- 幼虫は動作が敏しょうで、触ると尾部から激しく体を動かし、物陰に隠れる。

2 生態

- 年2回発生。
- 幼虫が、地表近くの腐植物などの中で越冬し、5月上旬になるとアカソやカラムシを食べる。
- 成虫は、7月上旬～下旬にダイズに飛来・産卵する。
- 卵は、葉脈の付近にまとめて数卵産み付けることが多い。幼虫は、葉をロール巻にして食害する。そのまま巻葉の中で蛹(13～15mm)となる。
- 新成虫の羽化は8月中旬から始まり、8月下旬～9月上旬頃にピークになる。これらはダイズには産卵せず、越冬地へ移動する。
- 成虫は日中はあまり活動せず、葉裏などにいる。生育期間は卵5日、幼虫 17～18日、蛹 10日程度。

3 発生しやすい条件

- 山沿いの地域。
- 近くに野生の寄主植物（アカソやカラムシ）が生育している。
- 生育が良好で葉色が濃く、葉が繁茂しているほ場。

4 防除方法

- 食害が目立つのは8月中旬以降であるが、老熟幼虫～蛹が多いこの時期は、薬剤防除効果が低い。

- 幼虫による葉巻被害から多発が予想される場合には、若齢幼虫の多い7月下旬～8月上旬に薬剤防除を行う。

5 出典

(1) 参考文献

- 原色病虫害診断防除偏 1 (農文協)
- 病虫害防除・資材編 1 (農文協)

(2) 写真

- 宮城県病虫害防除所撮影

(令和5年9月改訂)